

平成29年度 日本大学危機管理学部個人研究費 研究実績報告書

所属: 危機管理学部 危機管理学科

資格: 教授

氏名: 河本 志朗

研究課題		オリンピック等大規模イベントにおけるテロ対策の在り方について
報告の概要	研究目的及び研究概要	平成29年度個人研究費は次の研究計画を実行するために支出した。 1. 研究目的:2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに伴って、イスラム国(IS)などによるテロの脅威が高まることが予想されることから、大規模イベントにおけるテロ対策の在り方を調査研究することにより、我が国のテロ対策の向上を図るとともに東京オリンピック・パラリンピックの安全な開催に資することを目的とする。 2. 研究計画:テロ対策の中でも特に、CBRN(化学、生物剤、放射性物質、核物質)や爆弾を使用したテロの脅威の現状と対応策、対応に当たる関係機関による多機関連携の在り方、テロ発生時における救急医療の在り方である「事態対処医療」などについて、国内外の文献調査、関係者からのヒアリング、学会や研究会などでの情報収集を通じて研究を進めた。
	研究成果	平成29年度個人研究費を用いた研究成果としては、まず、第20回日本臨床救急学会総会・学術集会における「事態対処医療の普及」をテーマとしたパネルディスカッションにおける『事態対処医療の普及に向けた課題』についての研究成果の発表がある。この発表では、テロ等の緊急事態の発生現場における警察など対処機関と緊密に連携した救急医療である事態対処医療の現状と普及における課題に関する研究成果を発表した。また、「国民保護と救急医療」を特集した専門誌『救急医学』2018年1月号に、論文「警察における国民保護措置」を寄稿し、警察の国民保護措置の取組の現状と多機関連携における課題に関する研究成果を発表した。
研究業績	・論文および著書 著者名・論文標題・雑誌名・査読の有無・巻・発行年・ページ数	○論文:河本志朗「警察における国民保護措置」、『救急医学』、査読なし、第42巻第1号、2018年1月、23～28頁
	・学会発表等 発表者名・発表標題・学会名・発表年月日・発表場所	○学会発表:河本志朗「事態対処医療の普及に向けた課題」、第20回日本臨床救急医学会総会・学術集会、2017年5月28日、東京ビッグサイト
	・その他 *書評、雑誌投稿など 著書名・標題・掲載誌名・発表年月・発行所 *講演会、研究会等での講演・発表 発表者・発表年月・題目名・講演会等名 *社会貢献活動等	①雑誌投稿: ○河本志朗「2020年に向けてテロに備える」、『港湾』、2017年8月号、日本港湾協会、6～7頁 ○河本志朗「国際テロの潮流」、『NBCテロ災害—消防活動の基礎知識』、2018年1月、イカロス出版、6～11頁 ②講演会: ○河本志朗、「国際テロの脅威にどう備えるか」、2017年5月30日、さいたま市新任部長級・課長級職員危機管理研修会 ○河本志朗、「国際テロ情勢最新情報」、第7回国民保護CRテロ初動セミナー、2017年7月5日 ○河本志朗、「国際テロ情勢と日本への脅威」第一回防衛医科大学校テロ対策セミナー、2017年7月9日 ③社会貢献活動等: ○文部科学省 長崎大学高度安全実験施設に係る監理委員会委員2017年3月15日～2019年3月31日 ○文部科学省 科学技術学術審議会専門委員(安全安心科学技術及び社会連携委員会) 2011年2月8日-現在 ○東京都 東京都国民保護協議会委員2018年3月15日～2020年3月14日